

小学校ではキャンプや臨海学習、中学校では登山や文化祭に向けた準備、中体連県大会や各種コンクールに向けて熱のこもった練習が行われる時期です。こうした活動の中で子どもへの声かけを通して、個々の成長や人間関係の深まりを見とどけましょう。また、一学期に学級で行ってきた活動を振り返り、互いのよさやがんばりを認め合い、集団としての誇りを持って夏休みを迎えられるようにしましょう。



<小学校>

子どもの心に響く伝え方

You メッセージから I メッセージへ

- ・「(あなたは) どうして出来ないんだ？」
⇒「(私は) こうすれば できると思うよ」
- ・「(あなたが) 早くしなさい。」
⇒「(私は) もう少し急いでくれると助かるな。」

抽象的な表現から具体的な表現に

- ・「ちょっと待って！」 ⇒ 「あと〇分待って」
(見通しを持たせる)
- ・「危ない! 走るな！」 ⇒ 「廊下は歩こう。」
(適正行動を伝える)
- ・「うるさい! 静かに！」 ⇒ 「これくらいの声で」
(音量を実例で示す)

※子どもにだけ変化を求めるのではなく、教師の見方や言動を変えることで、これまでの子どもとの関係を改善してみましょう。

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

自分のよさを見つける当番活動、係活動

一学期の取組のよさや頑張りをより感じられるように、「ありがとうカード」を交換する場をつくりませんか。

- ◇各係へ向けて一人一人が「ありがとうカード」(小さな白い紙でよい)に成果や、頑張りが感じられたことを書く。
- ◇「ありがとうカード」をそれぞれの係に渡す。自分達に向けられたメッセージを読む。
- ◇二学期に向けて取り組みたいことや頑張りたいことを係ごと話し合ってみよう。

頑張ってきたことへの温かなメッセージが直接伝わることで、さらにやる気が湧いてきたり、もっとこうしたらよいというめあてを持てたりします。



※学級づくりをキャリア教育の視点から見直すと、キャリア教育で目指す基礎的・汎用的な能力の「人間関係形成・社会形成能力」等の育成につながります。

<中学校>

生徒を伸ばす褒め方・叱り方

生徒が自ら成長できる力を引き出すためには、心のスイッチをONにするきっかけが必要です。その一つに褒め方・叱り方があります。そこで大事にしたい3つのポイントです。

タイミング

- ・できたその時や、考えさせたいその時を逃さない。
- ・生徒は今の姿を認めてほしい。

具体的な事実

- ・頑張っている姿で褒める。
- ・具体的な事実のみを叱る。
- ・固有名詞(「〇〇さん」)でズバリ褒める、ズバリ叱る。

言い回し

- ・場や状況に応じて、時には大袈裟に時にはつぶやくように
- ・叱る時はくどくど話さない。

褒めるも叱るも、そこにあるのは、存在を認め、自己肯定感を持たせるための生徒への「愛情」。

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

自分のよさと課題を見つける職場体験学習

つながりがある職場体験学習にしましょう

2年生だけが行う学習という位置付けにしてしまうと以下のデメリットが考えられます。

- 学習がイベント的で、その場限りに…
- 受け入れ先の各事業所やそこで働いている人とのつながりがその場限りに…
- 勤労観や職業観について芽吹いてきているせっかくの「気付き」がその場限りに…

振り返りを発表し合い、学級内で共有

3年生：お世話になった地域への奉仕活動

2年生：職場体験学習(地域を中心として3日以上体験を行うようにし、振り返りで自己の変容の自覚化を促す。学級で発表→学年で発表→学校の文化祭等で発表)

1年生：職場見学(関心のある職場の見学に行き、2年生の職場体験学習につなげる)

そこを「こんなふうにしてみては